

中央教育審議会初等中等教育分科会学校安全部会 2016-08-23

通学路安全に関する 効果的な取り組みについて

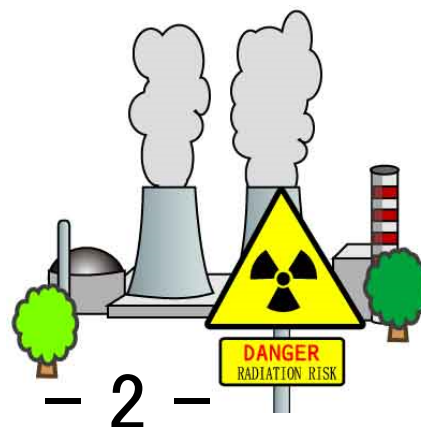
東北工業大学
小川 和久

リスクある環境の中で私たちは生きている

- 自然環境・・・地震, 津波, 洪水, 噴火。。。
- 社会環境・・・産業, 医療, 食品, 犯罪。。。

- 交通事故(道路交通, 鉄道, 船舶, 航空機)
- 工場(爆発, 火災, 有害物質), 原子力災害

人々の生命や健康が脅かされている現実がある



ハザードとリスクとは

一般的定義

- Hazard ハザード

危害を与える可能性のある環境内の
状況性・条件, 他者の行為

- Risk リスク

ハザードが現実の事故や災害に結びつく **可能性**



ハザード

- 交差点の見通しの悪さ
- 大型車が頻繁に右左折
- 歩道を自転車で「ながら運転」 など

リスク

- 出合頭事故に遭遇する可能性
- 横断時に右左折車にはねられる可能性
- 歩行者に衝突する可能性 など

通学路安全推進事業が目指すもの (実践的安全教育総合支援事業)



①通学環境内のリスクの抽出・分析・管理

- **リスク抽出**: 危険箇所の抽出, ハザードマップの作成
- **リスク分析**: 合同点検, 登下校の様子を調査, 関係者間でリスク情報を共有
- **リスク管理**: 各種安全対策(道路改良・規制・旗当番など)の実施と評価, 通学路の変更

②リスクに対する適応能力の育成支援

- **リスク情報の共有**: 児童生徒によるリスク情報の共有
- **リスク回避の学習**: 事故リスク低減のための行動基準

= 交通安全のための「**リスク・コミュニケーション**」

リスク抽出

歩者分離
側方間隔



高速走行



車両との
交錯



死角状況



リスク分析

・連絡協議会等の開催，アドバイザーによる助言



・登下校の様子を調査

→事故リスクを具体化

どういう事故が想定されるかを検討
対策の具体化と指導上の課題を抽出



交通安全教育とは

新たな
定義

リスクある**道路交通環境**への**適応**を支援
するための**能力開発**



具体的な教育実践 「交通安全マップづくり」

① リスク情報の共有:

- 校区の危険箇所に関するリスク情報(どこがどのように危ないのか)を共有する
- 各危険箇所における危険予測を学習する

② リスク回避の学習:

- **行動基準**(どうすれば安全に通行できるか)を考える
- 「止まる」「見る」「確かめる」を具体化

交通安全マップづくりの一般的な進め方

①危険な箇所を地図に印してリスク情報を共有する



事故要因となる環境条件(ハザード)を示して、危険を見る視点を定める



②危険予測を学習する

具体的な危険箇所を取り上げ、
「どのような危険が予測されるか」を考える



③ リスク回避のための行動基準を考える



どのように行動すれば、安全に横断(通行)できるかについて話し合う

行動基準の具体化



止まる

どこで止まるの？

見る

何を見るの？ どのように見るの？ いつ見るの？

確かめる

何を確かめるの？ どのように確かめるの？

交通安全リーダー制度（静岡県での教育実践）

- 高学年児童（主に6年生）を交通安全リーダーに指定し、マップづくりや地域との交流を通して、交通安全の学習を深めるとともに、上級生として下級生の模範となる行動を促す制度

「交通安全リーダーと語る会」

- 高学年児童が作成した手作りマップをもとに、警察、交通安全指導員、道路管理者、自治会、保護者等の地域の関係者と意見交流を行い、安全な登下校等、事故防止の問題について議論



交通安全リーダー制度の課題と方向性

- マンネリ化すると、道路改善の要望のみにとどまってしまう
- 児童および地域関係者のそれぞれの課題を再認識する機会とする
- 現実には、低学年児童の事故リスクが高いのに、高学年児童の学習成果が還元されていない
- 事後指導、縦割り学習など、学習成果が還元される仕組みを工夫する
- 時間確保、学力向上との関係
- カリキュラム構築を工夫することで、学力向上と連動できる安全教育を実践することが可能



教育実践例(静岡県裾野市, 宮城県石巻市)

- 積極的な情報共有, 地域との活発な意見交流, 低学年児童の安全確保(裾野市)



地域関係者, 児童同士の意見を集約し, 発表する

- 高学年児童の学習を低学年児童へ還元(石巻市)



ペープサート(紙人形劇)を使った危険箇所の説明

通学路安全推進事業の成果と課題



● 成果

- 連絡協議会を通して、情報共有を行い、協力体制を構築できるという点で一定の成果が得られている
- 交通安全リーダーと語る会のように、児童生徒と地域社会が交流する場があると、それぞれ立場の課題が再認識される

● 課題

- 地域連携が容易な地域とそうでない地域の問題
- 時間確保・系統的なカリキュラム構築の問題
カリキュラムや指導方法に精通した高度な技能を有する教員が必要
- 最終的に、通学路を通行する車利用者の意識・態度の問題